

## は じ め に

この報告書は「都市環境と歴史的建造物保存に関する調査・研究」として、昭和60年度に実施した聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂の調査研究の結果を報告するものである。

東京の市街地は、都市環境の変化とともに急速にその姿を変えつつあり、そうした流れのなかで歴史的建造物の多くが姿を消している。本研究は、このような都市環境のなかで歴史的建造物を正しく位置づけるためには、対象の正確な記録と把握が必要であるとの認識に立って、聖ルカ礼拝堂を多面的に調査したものである。

この建物は、わが国においてゴシック様式を本格的に再現した数少ない作例のひとつであり、その内部は聖具・家具を含めてよく当初からの姿を保っている。従ってその記録のために、本研究は1.建物の成立史、2.聖堂の実測および設計図面の整理、3.家具調査の三点からなる作業を行なった。それによって、はじめて歴史的様式を採用した建造物の全体が記録され得ると判断したためである。この建物がそうした多面的な調査にふさわしい資料を備えており、しかもそうした調査に値する質を備えていたことは、今後この建物のあり方を考える上で、つねに考慮されるべき点であろう。

本研究は直接的にこの建物の将来計画あるいは保存策についての提言は行なっていないが、それはこの建物がそうした提言に値しないということではまったくなく、むしろ逆に、極めて豊かな価値をこの建物が有していることを尊重したためである。今後、この建物の維持・管理・運営に当っては、本報告書の示した建造物の質を念頭に置かれることを切望してやまない。

さらに述べるならば、都市的環境に建つ歴史的建造物の調査は、今後ますます重要性を帯びるに違いないが、そのための基本的方法の確立にこの研究が何らかの役割を果たすことをわれわれは願っている。

調査に当っては、聖路加国際病院野辺地篤郎院長をはじめとする病院当局の方々のご理解とご協力を得た。記して感謝申し上げる次第である。